

登戸学寮 ニュース

第 11 号 2021 年 10 月 20 日発行

SDGs と登戸学寮

理事長 小島 拓人

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は 2015 年 9 月に国連総会において加盟 193 カ国の合意のもとに採択されました。それは拡大する貧困と格差、「地球の限界」がもたらした気候変動や生物多様性の喪失など、ここ数十年の間に人類に破局的状況をもたらしかねない慢性的危機に対して、2030 年という年限を切り、17 のゴールと 169 のターゲット、232 の指標を示して「持続可能な社会・経済・環境」に移行することによって、これを克服することを目的とするものです。

地球環境問題も含めて「人類の活動は持続可能か？」は今や世界的な課題となっておりますが、この SDGs について「住友グループの 430 年に及ぶ事業精神は実は、SDGs に一致する要素も多く含んでいる」という指摘もあります(「SDGs×住友グループ: 430 年の歩みと未来」2020 年 12 月 17 日日本経済新聞)。その住友グループ各社から、登戸学寮は黒崎先生のご縁もあり創立当初からご支援を頂き、今回の創立 60 周年記念事業にも多大なご賛同を賜りました。

登戸学寮は、学寮設立趣意書に記載されており

ますように、次代を担う若者にキリスト教精神に基づく共同生活の場を提供し、その上で真の意味に於いて「日本の為、人類の為に生死する人間」を育てることを目的として 63 年前に創立されました。それは今日流に申し上げれば SDGs が標榜する日本のみならず世界のニーズを先取りし、そのために貢献する人材を育成する試みでもあったと言えるのではないかと思います。

今般、登戸学寮は創立 60 周年を記念し、「黒崎幸吉賞」を創設しました。本賞は、当学寮の設立者である黒崎幸吉先生の全人格的教育理念とパイオニア精神にちなみ、その精神に合致する SDGs とも歩調を合わせ、未来を拓く活動・研究を奨励することを目的とし、該当する個人または団体に対して、賞という形で感謝と支援の意を表明するものです。これは登戸学寮関係者への授賞制度であると同時に、登戸学寮そのものの歩みと存在意義を再確認する試みでもあります。なお、今年の賞の内容は「黒崎幸吉記念キリスト教講演会」に代わるものとして 11 月のホームカミングデーに報告される予定です。

特集 卒寮生インタビュー

理事長挨拶 1	「黒崎幸吉賞」創設 8
寮の近況報告 2	11/20 のお知らせ/図書管理システム	... 9
読書会の紹介/人気の献立 3	卒寮生が参加する日曜集会等 10
聖書の言葉 4	寮友会より/コラム俳句鑑賞の手引き	... 11
卒寮生インタビュー 5	ご支援へのお礼とご報告 12
評議員選定委員会・理事会・評議員会	... 6	寮生の出身国・都道府県 12

2021 年春夏 学寮の日々 ～枳形山より～

4月に入寮した女子寮生7名、男子寮生2名を加えて35名でスタート。夏までの間に大学院生2名が退寮し、現在33名。調理職員7名（調理専属の職員4名、寮生アルバイト2名、私）。その他に寮長、事務職員2名（名簿や寄付金担当1名、私）。

全部で約40人が出入りするこの建物を結構な大所帯と思うか、こぢんまりとした場所と思うか。40人もいれば昼夜を問わず出入りもある。誰かが寝ているし、誰かが起きている。誰かが勉強しているし、誰かがゲームをしている。誰かがお風呂、誰かがシャワー。誰かがトイレ、誰かが洗濯（時間が決まっているはずなのに）。登戸学寮は不夜城ならぬ不夜寮と言えなくもない。



防災訓練の様子
(7月18日)

寮長の朝は早い。といっても目覚まし時計に起こされるような義務的早起きではなく、習慣的早起き。本人曰く、2時か3時には起きる、早朝こそ書き入れ時(何の?)、頭が働くのは一日のうちほんのわずかの時間だし…。しかし寝るのも早い。早いときには8時には寝ている。早起きは三文の得とはいうものの、活動時間がずれているだけではないか。夜更かしと大差ないような気がする。

朝早い寮生もいる。4時半頃朝食準備に行くとプレイルームが明るい。おはようございます、早起きだね～と声をかけると元気な声が返ってくる。しかし30分後には姿が消えている。ランニングでもない、ラジオ体操でもない。早朝に出かけていく寮生がいる。7時(礼拝の始まる時間)に戻ってくるのかと思えばそうではない。「生活のしおり」のように文字の多い文章は読めないらしい。興味のある情報だけ選択していくヒトビト、かなり深刻な問題だと思ふ。

朝、昼、夜、律儀に食事をする寮生がいる。かと思えば、朝食を食べたら昼食は食べない(運動量から考えると効率よし)ヒトもいる。しかし運動量に比してどう考えても摂取過剰なヒトもい

る。寮生キッチンが込み合う時間、手際のよいヒト、ゆっくり丁寧なヒト、何となく棲み分け、時間差で利用されている。お掃除しないとあつという間に悲しい状況になる女子寮キッチンも然り。自炊派、中食派に分かれつつも食べることは生きること、寮生キッチンが利用されているのは何より(外食派は見当たらない)。

調理担当職員の長年の経験と年季が詰まった登戸学寮の食事はひと味違う。4月より加わってくださったシェフ・ナカシマ担当の夕食はさらにひと味違う。残念なのは約4年間、丁寧な味、美しいお料理を用意してくださったクニミさんのご退職(8月)。何か月かに一度、プロフェッショナルな天ぷらを登場させてくださるトモイさんは颯爽と出勤、明るく退勤。

お洗濯大好きなヒトビトが何人かいる。毎日お洗濯、定期的にお洗濯、晴れていればお洗濯、雨でも気にしないでお洗濯。様々なお洗濯好きがいる。梅雨空のもと湿度90%では決してからりと乾かない。太陽の動きを常に心にとめるか、エアコンのドライモードを活用するか、除湿機を駆使するか、乾燥機にたよるか、経験がヒトを磨く。部屋の中で黒いポツポツを生じさせてしまったヒトは、次亜塩素酸活用の技も身につけた。一生涯役立つ生活の知恵。

日曜日朝の掃除、ほとんど総出の女子寮、大半が夢の国へお出かけ中の男子寮。それでもなぜか日曜日朝食の摂取率はよく、皿数が足りるのか、日曜日朝食担当のイケダさんをどきどきさせている。

後から後から生えてくる草、伸びてくる木々の枝。何もしないと鬱蒼とした生田緑地の一部になり果てるかも。忙しい事務作業時間の合間に除草やら剪定をするために道具と作業着持参で出勤してくださるアカホリ氏。ヤギでも飼ったらよいのではないかと検討していた中庭の緑、バジルも大葉もルッコラもフェンスに絡み始めたつるバラまでもご丁寧に刈り取ってくれた寮生アルバイト😞。

感染症が蔓延する危機的状況下、夏季閉寮期間中はしばしの静寂。大音声、大合唱の蟬の声だけが岩ではなく築約60年の強固な建物にしみこんでいく。
千葉美佐子

読書会の紹介

千葉寮長がいらしてから、「読書会」という学びの場が多くもたれています。参加者が希望するテーマとなる図書を指定し、それについて語り合うというのですが、私が思うに、その最大の特徴は「自由」であることでしょう。形式面で言えば、朝拝と違い、不定期開催・自由参加で進行のルールもなく、寮長と学生が自由に発言し、双方向型のコミュニケーションがとられていること、内容の面では、扱う作品の多様さ、議論の発展の仕方の自由さといった特徴があります。作品を例に出すと、ディストピア SF 小説の『1984』（ジョージ・オーウェル）、純文学の『田園交響楽』（アンドレ・ジイド）、生命論『生物と無生物のあいだ』（福岡伸一）、戦記マンガの『風の谷のナウシカ』（宮崎駿）と多種多様な図書を扱っています。議論が白熱し、2～3時間に及ぶこともあります。そこには自分の考えを何でも言い合える自由さが前提としてあります。

学びに大切なことは「知らなかったことを知る」とか「間違いを正し、真実に近づく」とか言える

慶應義塾大学商学部 3年 柴田真之介

でしょう。そしてそれによって、自分の中の世界が広がり、より鮮明に物事を捉え、現状から一步先へ踏み出すことができます。すると、この学びという「前進」は常に自分の「意思」によってのみ実現されると論をつなぐことができます。なぜなら一步先へ進む上で、自分の今いる場所を知っているのは自分自身のみであり、そこから一步踏み出すためには、他ならぬ自分の意思が必要とされるからであります。そしてこの意思は、「独立」または「自由」なしでは有り得ません。なぜなら他者からの干渉・制約は、その健全な形成・生起を阻害し、純粹さを奪うからであります。つまり学びにとって自由とはエッセンスであるわけであり、それが担保されている読書会は貴重な学びの場であると、そう言えるわけです。

先日、学寮 OB 武田武長氏黒崎記念講演「存続する世界に対する責任」を取り上げました（『方舟』53号）。長崎爆心地出身の私は大きな示唆と思考の糧を頂きました。

寮生に人気の

献立

7月の夕食から好きな献立を寮生に聞きました。（回答率：69.7%）

No.1

ビビンバ、キムチ、韓国のり、スープ

韓国料理が好き

No.2

- ▶ から揚げ、かぼちゃとピーマンの素揚げ、キャベツ・人参の海苔酢あえ、みそ汁
- ▶ キーマカレー、スティックサラダ、タルタルソース

No.4

- ▶ カレー、杏仁豆腐、サラダ
- ▶ 天ぷら、木の実あえ、みそ汁

天ぷらの種類が豊富で豪華

No.6

- ▶ 鶏肉甘辛焼き、いんげんソテー、蓮根とさつまいものきんぴら、みそ汁
- ▶ 鯖の味噌煮、肉じゃが、小松菜おひたし、みそ汁
- ▶ ハヤシライス、サラダ、ゼリー
- ▶ 生姜焼き、ラタトゥイユ、ポテトサラダ、みそ汁

肉料理が好き

No.10

ポテトグラタン、ツナ人参サラダ、バターライス、スープ

※ 男子寮1番人気は「カレー」、女子寮1番人気は「ビビンバ」でした。



飛沫防止パネルが設置された食堂



試行錯誤中の献立ですが、エネルギー過剰にならないように、また心身のバランスを整えるためにも野菜は豊富に摂ることができるように工夫しています。野菜は地元の八百屋に毎日配達してもらっています。

聖書の言葉 愛敵の教えと良心

「君が祭壇に供物を捧げようとし、そこで兄弟が君に何か反感を抱いていることを思い出したなら、その供物を祭壇の前において、まず戻って和解せよ、それから行って捧げよ」(Mat.5:23)。

共同生活において各人の良心の発動の異なりに出会うのは興味深い。或る問題が起きて一人が言った、「メンタル強いやつはただ鈍いだけではないのか」と。良心とは「共同の知識(con-science)」であり、何とのまた誰との共通の了解であるかが問われる。自らが育った家族(映画「万引き家族」)や社会とのひいては神との共知が想定される。イエスは誰かとの諍いを「思い出したなら」という仕方で、神を賛美してきた者が自らの偽りに気づいた状況に良心の咎め(神の不興)の発動を見る。憎しみつつ神に感謝する二心の解消が先決となる。パウロは神との共知をこう語る。「かくして、われらは主の恐れるべきことを知っているの、人々に説き勧める、われらは神には明らかになってしまっている。だが汝らの良心にも明らかになっていることをわたしは望む」(2Cor.5:10)。ひとの生は、家族等与件を出発点に、神に明らかになるその共知を求めての探求となる。

日曜前講での Y 君の小学時代の話は聴衆に衝撃を与えた。劣悪な家庭環境下で育った S 君の暴力が6年続いた。弱い者たちに格闘をさせ怪我をするか泣き崩れるまでやめさせなかったという。母君は Y 君を守りつつ、山上の説教「敵をも愛せよ」を教え、共に S 君のために祈ったという。聖書が少年の生の規範となり、彼は心身の損傷を掛けてイエスの言葉を受け止めた。天真爛漫が許される時期に人間社会の縮図を経験してしまった。しかしその苦難が Y 君の現在地点を作っている。この話に山上の説教が耳に鳴り響く生活を小なりとも送ってきた私に「君もイエスの引力に捉われてきたのか」と同士の感覚が湧いた。Y 君の上に聖書に即した生が人間の本来性であると十全に納得するその祝福を祈った、ムシヨと娑婆を行き来する S 君にも。

信の従順のもとに死に至るまで山上の説教を生きぬいたイエスの聖さに、おのれの罪、穢れを知らされる。罪赦され義とされたことの証は愛しうることだという教えに、歯を食いしばって敵を

も愛する(Luk.7:47)。「信仰は悔い改めに始まる」(ルター「提題」第一条)。ここでもあそこでも、キリストを裏切ったと、胸を打ってばかりいる者の生は或る人には愚かに見えよう。しかし、キリストの信に基づく義・正しさ、その「義の果実」である愛の聖性を知るとき、信→義→愛の動的な力を頂く(Phil.1:10、前号「福音」)。「愛を介して働いている信が力強い」(Gal.5:6)。愛を生み出す信の力に希望がわく。「神の義」が「今や[業の]律法とは分離されて」、「イエス・キリストの信」とご自身の義とに「分離(*diastolē*)がない」仕方で知らしめられた故に、信義の分離なき「信の律法」はモーセの「業の律法」より神ご自身にとってより根源的である(Rom.3:21-27)。そこでは貪る貪らないの道徳的行為主体の責任ではなく、神の愛を信じるか裏切るかが問われている。

誰もが「内なる人」と呼ばれる「霊」と「叡知(ヌース)」の「刷新」、「日々新」から構成される心魂の部位を力能において持っており、そこに「神の意志」を知り、聖霊を受け取る信が生起する(12:1,7:22,15:13,2Cor.4:16)。「叡知」の発動は神との共知(良心の最終態勢)である。「われらはキリストの叡知を持つ」(1Cor.2:16)。「われらの戦いの武器は肉のものではなく、神による諸力能であり、神の認識に抗するあらゆる高慢を破りつつ、そしてキリストの従順へとあらゆる叡知内容を虜にする」(2Cor.10:4-5)。ルターが「信仰のみ」と呼んだ心魂における信の根源性は、ただ常に刷新が必要とされる内なる人への帰還を促す。「信に基づかないものごとはすべて罪である」(Rom.14:23)。この二番底に帰り刷新されるたびにひとは不思議な平安と柔和を頂く。「キリスト・イエスにおける生命の霊」の充溢に与り、「[業の]律法の冠」である「愛」を「充足」する(8:2,13:9)。

イエスは「疲れた者、重荷を負う者われに來たれ」と信仰に招く(Mat.11:28、本誌9号)。彼の軛に繋がれ歩調をあわせるとき、彼の歩みから彼の「柔和さ」そして宇宙の創造主と等しくある栄光を捨てられた受肉の「低さ」が自然に伝わってくる。その柔和な低さが弱小者の祝福を裏付ける。過去の自らの悲惨を知る者には、低くされた彼に合わせられ柔和でありうるだけで嬉しい、主が共にいますからである。 千葉 恵

卒寮生インタビュー その1 宮崎聡子

在寮期間：2011.4～2015.3 小学校教員、登戸学寮評議員



—現在の仕事とやりがいは？

千葉県内の公立小学校で5年生、37人の担任をしています。教師になって7年目になりますが、生徒の成長を毎日感じられることにやりがいを感じます。公立は私立に比べ、家庭の経済力や保護者の考え方など、生徒一人ひとりの背景が広く支援の幅も広いです。その子に対してどのような支援がベストか、試行錯誤していく中で成長の実感を得られた時は嬉しいです。微力ながらも、出会った子どもたちの助けになりたいです。

—どのような寮生活でしたか？

私が入寮した年は3.11の年でした。震災の影響で実家は経済的にも大変な状況でしたが、理事などの有志の方々が支援して下さい、本当にありがたかったです。私だけでなく、留学生への支援や寮生活動支援など必要な人に必要な支援がありました。こういった寮は他にないと思います。

入寮して最初の数日はホームシックでしたが、すぐに慣れました。寮に帰れば、寮のどこかに誰かがいて会話ができて、寂しさを感じることはなかったです。一緒に卓球をしたり、ギターを教してもらったり、一緒にお風呂に入ったり、人と一緒に何かをするというのは、特別だし貴重な時間。就職採用試験の際は、模擬授業の練習に寮生が生徒役になり応援してくれました。大学の友人との時間も楽しかったですが、寮生活が学生生活の大きな部分を占めています。



在寮時の宮崎さん(中央) 寮生有志の会合

—寮生との交流がたくさんあったのですね

辛い時は誰かに話せる環境があり、相談にものってくれました。先輩、後輩、同期生、出身地も専攻も異なる様々な寮生がいて、たくさんの刺激を受け視野が広がりました。また、他の寮生への尊敬の気持ちから自分を鼓舞することもできました。今振り返ると、与えられた環境に満足して自分からあまり行動しなかったかもしれません。一人暮らしならもっと、無駄な時間を過ごしていたと思います。

寮生とはだらしのない面も見せ合ってきました。私にとって、寮生は友人と家族の間のような存在でした。今でも大切な存在で、社会人になった今、とてもありがたく感じています。

—印象に残っている出来事やイベントは？

ハロウィンパーティーやクリスマス会、クッキングパーティーなど、どれも楽しい思い出です。ホームカミングデーや黒崎幸吉記念講演会など、当時は面倒だとも思いましたが、卒寮生と話す機会もあり、学生では考えられない視点を得ることができて学びになりました。日曜礼拝では、数人でのディスカッションの機会が多くあり、聖書への理解に広がり深みができました。寮主催の社会科見学で行った裁判の傍聴は印象的でした。世の中を知ることの大切さを肌で感じました。

—寮での経験は社会人になって役立っている？

人と接する仕事をしています。自分なりの考えを持って誰とでもコミュニケーションをとれるのは寮生活のおかげだと思います。寮生活を通し、それまで自分が持っていた文化をよい意味で壊すことができました。一緒に生活しているからこそ見える長所や短所を自然と伝え合える。そのおかげで、自己理解が深まりました。他者、人間への理解にもつながりました。

みんなが嫌がるけどやらなくては困る掃除など、人はどうしたら動くのかよく考えていました。多くの人は嫌なことや面倒くさいことに対してメリットを感じないと動きません。それを強制せずにどう動いてもらうか。当時は大したことはできませんでしたが、その時に考えていたことが、今に生かせていると感じます。

—今後の目標ややりたいことは？

いつか教員としての経験を JICA のシニア協力隊などを通して貢献できたらよいと思います。

インタビューを通して当時を振り返り、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。私もいろいろな形で寮に恩返しをしていきたいです。

聞き手：織田千尋

評議員選定委員会・理事会・評議員会の報告

1. 評議員選定委員会、理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の評議員選定委員会は2021年4月24日(土)に、定例理事会は5月22日(土)に、定時評議員会は6月12日(土)に、臨時理事会は6月12日(土)と8月21日(土)に、対面及びZoom会議形式で開催されました。以下にその議事内容について報告します。

2. 追加評議員選任

評議員の任期は4年ですが、本年3月の定款変更により、評議員定員が12名以上20名以内と増え、これに伴い定款に定める手続きに基づいて評議員選定委員会で下記の7名の追加評議員が選任されました。(追加評議員の任期は2年)

井上和駿、江川信吾、土屋希望、浪川優希、星住リベカ、三浦佳南、宮崎聡子

3. 2020年度決算

本年5月22日定例理事会及び6月12日定時評議員会において、2020年度決算資料(貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書等)について、監事による監査報告を経て、承認可決しました。

収支計算書について、事業活動収入は、予算対比でみて、大口寄付も含めた一般寄付の増加、コロナによる寮費収入減等により、3162万円、他方、事業活動支出は、雑給手当、広報費の増加等により、2666万円となった結果、事業活動収支差額は、496万円(予算対比+157万円)となりました。

他方、投資活動収支は、例年の建物再建積立に加え、60周年記念工事費支払いのための修繕等積立金の取崩し、工事完了による固定資産取得支出(過年度設計費前払いを含む)を計上、投資活動収支差額は、-482万円(予算対比-112万円)となった結果、当期収支差額は、14万円(予算対比+45万円)となりました。

(別表1参照)

正味財産増減計算書について、経常収益は、受取寄付金振替額(修繕等積立金の取崩しおよび特定費用準備金の取崩し)を含めて5666万円となる一方、経常費用は、減価償却費を含め

て、3381万円となった結果、当期経常費用増減額が2285万円(対前年比+2718万円)となりました。(正味財産増減計算書は、誌面の都合上、『方舟』次号に掲載予定)

・貸借対照表について、60周年工事の完了により、前年対比でみて、建物の固定資産が増加

【別表1】収支計算書

令和2年(2020年)4月1日から令和3年(2021年)3月31日まで
(単位:円)

科目	予算額a	決算額b	差異b-a
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
基本財産運用収入	0	498	498
特定資産運用収入	0	5,926	5,926
入寮費収入	2,100,000	2,400,000	300,000
寮費収入	23,840,000	22,723,797	-1,116,203
寮費収入(室料)	14,100,000	14,523,398	423,398
寮費収入(食事代)	5,220,000	3,658,203	-1,561,797
共益費等寮生徴収金	4,520,000	4,498,746	-21,254
短期宿泊料収入	0	43,450	43,450
寄付金収入	2,500,000	6,096,444	3,459,444
寄付金収入(一般)	2,500,000	5,625,492	3,125,492
寄付金収入(団体)	0	132,500	132,500
寄付金収入(特別)	0	201,452	201,452
寄付金収入(60周年寄付)	0	137,000	137,000
雑収入	66,000	60,971	-5,029
特定費用準備金取崩収入	500,000	335,756	-164,244
事業活動収入計	29,006,000	31,623,392	2,617,392
事業活動支出			
人件費	10,150,000	11,026,190	876,190
賄材料費	3,300,000	3,344,215	44,215
会議費・役員会雑費	350,000	79,793	-270,207
寮生指導・厚生費	130,000	255,182	125,182
旅費交通費・車両費	320,000	266,286	-53,714
通信運搬費	1,300,000	564,082	-735,918
消耗品費・事務用品費	550,000	589,863	39,863
修繕費・什器備品費	800,000	1,245,646	445,646
方舟刊行・印刷費	1,150,000	957,937	-192,063
講演会等諸雑費	500,000	75,591	-424,409
水道光熱費	2,500,000	2,955,687	455,687
広報費	1,200,000	1,564,386	364,386
図書新聞費	80,000	72,288	-7,712
支払報酬料	850,000	1,049,623	199,623
災害保険料・防災費	750,000	623,396	-126,604
租税公課	350,000	367,100	17,100
支払手数料・その他	830,000	1,285,540	455,540
寮生活動支援費(60周年事業費)	500,000	335,756	-164,244
事業活動支出計	25,610,000	26,658,561	1,048,561
事業活動収支差額	3,396,000	4,964,831	1,568,831
II 投資活動収支の部			
投資活動収入	25,000,000	25,176,698	176,698
投資活動支出	28,700,000	29,996,565	1,296,565
投資活動収支差額	-3,700,000	-4,819,867	-1,119,867
当期収支差額	-304,000	144,964	448,964
前期繰越収支差額	6,941,353	6,941,353	0
次期繰越収支差額	6,637,353	7,086,317	448,964

したほか、特定資産のうち、建物再建積立金が7745万円(前年比+370万円)、修繕等積立金が392万円(-2493万円)、特定費用準備金が475万円(-34万円)となりました。

(別表2参照)

- 毎年決算資料の作成(確認)をお願いしている落合税理士からは、寮生数の増加により収支改善効果がみられるものの、将来の厳しい状況を見据え、大規模修繕や建物再建等のための計画的な積立と安定的な財務運営ができるよう一層努力されたいとのコメントがありました。
- 最後になりましたが、2020年度決算に計上した60周年工事経費を含めた60周年記念事業の収支報告につきましては、既に学寮ニュース前号に掲載しておりますが、皆様のご支援により、本事業が実現できたことを改めて感謝申し上げます。また、昨年度厳しい財務状況の中、皆様が多額のご寄付により、当期収支が黒字を達成できたことにつきましても、厚く御礼申し上げます。

4. 新理事、追加監事、新顧問選任

理事の全員が6月の定時評議員会の終結と同時に任期満了退任することとなったので、定款に定める手続きに基づいて定時評議員会で下記のとおり理事13名が選任されました。(理事は任期2年)

理事：牛嶋 仁(重任)、大竹英雄(重任)、大谷 恵(重任)、金井 守(重任)、岸本尚毅(重任)、小島拓人(重任)、小西孝蔵(重任)、白石光一(重任)、鷺見八重子(重任)、副島正人(重任)、千葉 恵(重任)、橋内 武(新任)、福嶋美佐子(新任)。

併せて追加監事1名、顧問3名が選任されました。(追加監事の任期は2年、顧問は1年)

追加監事：古角 隆(新任)、顧問：織田千尋(重任)、櫛田俊明(新任)、野田一三(新任)

5. 理事長(代表理事)1名、 常務理事(執行理事)2名選任

新理事選任に伴い、定款の定める手続きに基づいて臨時理事会を開催し下記のとおり選任されました。

理事長：小島拓人

常務理事：副島正人、鷺見八重子

【別表2】貸借対照表

令和3年(2021年)3月31日現在

(単位:円)			
科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	10,209,773	10,941,814	-732,041
未収金	3,957	0	3,957
商品	34,164	48,072	-13,908
前払金	42,931	1,024,837	-981,906
立替金	95,900	148,060	-52,160
流動資産合計	10,386,725	12,162,783	-1,776,058
固定資産			
基本財産			
土地	592,500	592,500	0
建物	138,016,491	119,045,294	18,971,197
定期預金	6,300,001	6,300,001	0
基本財産合計	144,908,992	125,937,795	18,971,197
特定資産			
建物再建特定積立資産	77,448,012	73,748,012	3,700,000
修繕等特定資産積立資金	3,915,806	28,846,926	-24,931,120
特定費用準備金	4,747,355	5,083,074	-335,719
特定資産合計	86,111,173	107,678,012	-21,566,839
その他固定資産			
その他固定資産合計	3,739,130	3,705,971	33,159
固定資産合計	234,759,295	237,321,778	-2,562,483
資産合計	245,146,020	249,484,561	-4,338,541
II 負債の部			
流動負債			
前受金	1,282,500	3,333,480	-2,050,980
未払金	1,198,080	1,322,531	-124,451
預り金	39,828	25,419	14,409
入寮時預り金	780,000	540,000	240,000
流動負債合計	3,300,408	5,221,430	-1,921,022
固定負債	0	0	0
負債合計	3,300,408	5,221,430	-1,921,022
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産	5,663,114	30,929,983	-25,266,869
2. 一般正味財産	236,182,498	213,333,148	22,849,350
正味財産合計	241,845,612	244,263,131	-2,417,519
負債及び正味財産合計	245,146,020	249,484,561	-4,338,541

6. 黒崎幸吉賞

次ページ掲載の通り「黒崎幸吉賞」を創設することとして、臨時理事会で承認されました。

7. 特記事項 寮生活活動支援報告

今年度の寮生活活動支援は昨年度に引き続き文化服装学院でニットを専門に学ぶ山田聖義さんに給付されました。前回の「ホームスパンの旅」の活動を発展的に継続させたものであり、今回は岩手県岩泉町の工房や町役場とも連携しながら、伝統工芸としてのホームスパンがその地域でどのように伝承され、今後どのような展望を持ち得るのか、自分の職業としてどのように関わることができるのかを地域の人たちと探り、移住や就職を含めたより具体的な手段を模索する活動が計画されています(ホームスパン：羊毛を染色、手紡ぎ、手織りで製作した布)。

「黒崎幸吉賞」創設 —登戸学寮60周年を記念して—

「黒崎幸吉記念キリスト教講演会」は第50回の節目を目前にしてコロナ禍蔓延のため講演を中止し『方舟』誌上での発表となりました。折しも今井館の移転事業が緒につき、登戸学寮としてもこれを機に新たな形で学寮60年の伝統を継承発展させるべく「黒崎幸吉賞」を創設しました。学寮設立にあたり掲げられた黒崎先生のキリスト教に基づく教えを生かして社会に貢献している若者たち、あるいは学寮を長らく支えてこられた諸先輩に光をあて、ホームカミングデーの場をかりて講演していただき、世代を超えて共々によろこび、学びと交わりを深めることを目指します。

初年度はおもに寮長、役員経験者に推薦を依頼しすでに選考にかかっていますが、来年度は読者の皆様にも奮ってご推薦いただきたく、ご協力・ご支援をお願いいたします。

黒崎幸吉賞

公益財団法人登戸学寮（以下当寮）は創立60周年を記念し、「黒崎幸吉賞」を創設しました。本賞は、当寮の設立者である聖書学者黒崎幸吉（注）のキリスト教に基づく全人格的教育理念とパイオニア精神にちなみ、その精神に合致する国連のSDGs（持続可能な開発目標）と歩調を合わせ、未来を拓く活動・研究を奨励することを目的とし、該当する個人または団体の「地の塩、世の光」の活動を紹介し、感謝と支援の意を表明するものです。まずは小さくスタートし、登戸学寮に資する事業に育てていきたいと祈念しております。

対象:公益財団としての当寮の設立の趣旨に照らし、以下のようなかたを対象とします。

例1 当寮在籍経験者であり、社会活動・学術文化等の分野で活躍しているかた、
または活躍が期待されるかた

例2 当寮の設立の理念を理解し、当寮を支援してこられたかた

授賞式:当寮で行う授賞式のさい、授賞されたかたには記念講演を行っていただきます。
(講演記録は、当寮の機関誌に掲載予定)。

選考方法:他薦による候補の中から、当寮の理事会が選定する選考委員会の推薦に基づき、当寮の理事会が授賞者を決定します。候補の推薦者は、当寮出身者、寮長・役員経験者および当寮の設立の趣旨を理解するかたとします。

推薦方法:推薦者は、所定の推薦書（同封・添付またはURL <https://bit.ly/3CCT3MY> から取得）により、下記宛てに一部郵送、またはメール添付にて推薦してください。
なお、参考資料などは説明を付け、推薦書に同封してください。（書類一式は返却いたしません。）

推薦書の提出締切:2021年9月30日（消印有効）

郵送先:〒214-0032 川崎市多摩区枡形 6-6-1 登戸学寮寮長 千葉 恵 宛
メールアドレス noborito@gakuryo.or.jp

2021年8月28日

登戸学寮理事長 小島 拓人

(注) 黒崎幸吉(1886~1970) 内村鑑三門下の聖書研究者・伝道者。山形県出身。東京帝大卒。住友本社に10年間勤務の後、退職して聖書の研究、執筆、伝道に従事。聖書研究の月刊誌「永遠の生命」全423号(1925-1966年)を刊行(1937年思想統制の下で発禁処分を受ける)。その活動の一環として、1958年、青年への全人格的教育の目的で公益財団法人登戸学寮を創設。

以上

お知らせ 11/20(土) ホームカミングデーほか

「黒崎幸吉賞」第一回の授賞式および講演会、ならびに HCD（ホームカミングデー）のご案内です。現在受賞候補者を選定中ですが、決まり次第学寮HPにてお知らせいたします。HCD は寮生活動支援成果報告会ならびに楽器演奏そして「登戸学寮誕生物語」と題して数人の配役によるオリジナル朗読劇を上演します。

なお、当日後に視聴を希望される方は後日、学寮HP「お知らせ」に掲載する記事のリンクから期間限定で閲覧いただけます。

11月20日(土)

15:00-16:00 「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会

16:10-16:50 寮生活動支援成果報告会

青野 道「日本歌曲コンクールへの参加」

山田聖義「手紡ぎ工房等の見学」

16:50-17:25 楽器演奏、「登戸学寮誕生物語」

参加ご希望の方は下記 URL からお入りください。

※ Zoom アカウントは作成不要です。

<https://us06web.zoom.us/j/9013893127>

ミーティング ID: 901 389 3127

登戸学寮の図書管理システム

はじめに：2020年秋、当法人理事長の友人、木下智雄氏より黒崎幸吉記念資料室（以下、資料室）所蔵の図書整理を用途とする指定寄付の申し出があり、受領、活用させていただいています。

管理システムの概要：2020年12月、図書管理システム（お気軽図書館 I・TEC ソリューションズ）を導入し、寮生アルバイトによる資料室蔵書の書誌データ入力作業を開始しました。今回の蔵書整理の目的は、資料室にどのような蔵書があるのか電子的に記録し、電子データとして必要に応じて検索できるようにすることです。実際の作業手順としては、国会図書館が構築している「国会図書館サーチ」を利用し、検索時に多く使用される項目である「タイトル」、「著者」、「著者ヨミ」、「出版社」、「件名」などを入力していきます。ご存じのように国会図書館は日本の納本図書館であり、大学図書館、公共図書館、専門図書館などが蔵書する資料のデータを一元的に作成し、全国の図書館に頒布しています。資料室の資料は1900年代前後からのもの、地方出版社の出版物、私家版などが多数あるものの「国会図書館サーチ」では全国の図書館蔵書資料を網羅しているため資料室にあるような資料でもそのほとんどがヒットし、それらのデータを利用することができます。洋書のタイトル、著者に関しては山吉裕子前寮長が丁寧に整理された蔵書の電子データからコピーすることにより、大いに作業効率が上がりました。作業を開始し約7カ月、13人の寮生が関わり約190時間で約2000件のデータを入力しました。

蔵書検索：検索システムとしては資料室の蔵書

は数千冊、しかもキリスト教関係資料が多く、外部からの利用者も限定されることを念頭に、国内の図書館蔵書を横断的に検索するサービスを提供している「カーリル」を利用することとしました。同社は COVID-19 対策の一つとして学校図書館等を対象として「学校図書館支援プログラム」というプロジェクトを展開し、蔵書検索システムを無償で提供しておりそれを活用することとしました。「お気軽図書館」によって蓄積した書誌データをカーリルに送ると「登戸学寮 黒崎幸吉記念資料室」の資料として検索できるよう蔵書検索システムとしての体裁を整え、提供してくれるのであります。以下が登戸学寮専用の検索 URL であり、キーワードを入力すると、書籍情報（タイトル、著者名、出版社、出版年、所蔵場所）が表示されるのでお試しください。

<https://private.calil.jp/gk-2003477-z3fs1/>

今後の課題：洋書関係、山中湖に保管され安田裕評議員により整理された図書資料の入力、経年劣化のみられる資料の補修、図書以外の資料（手紙、ノート、文机・杖などの遺品）の整理等が今後の課題です。学寮設立当時の関係者が逝去されるたびに、記憶としての記録もまた消失していくことは大変残念なことであり、現在を生きる人々、後世の人々が学寮設立の理念にいつでも立ち返ることができるような拠り所を維持することが今回のプロジェクトの大きな目的であることを確認しつつ、木下様のお志を感謝とともにお受けし、活用したいと願っています。

卒寮生が参加する日曜集会・教会等一例

このたび副島浩監事（登戸学寮一期生）が知己を得ている卒寮生にお声をかけ聖書集会や教会での活動についてお尋ねしました。応答くださった各位のお働きの一部を紹介いたします。今後『方舟』において卒寮生の聖書研究、福音宣教の実際を掲載していきます。（事務局）

集会名	都道府県	創立時期	集会関係頻度	集会の在り方	定期刊行物
卒寮生氏名	役割		その他		
札幌独立キリスト教会(単立)	北海道	1882年12月	毎週日曜	輪番制：教会の役員が交代で担当	「独立教報」7回/年
大友浩	主管者（牧師を置かない）		若い人々への伝道が出来ていない		
山形聖書集会	山形県	1933年5月	第2、4日曜	輪番制：会員8名が輪番で講話	追悼文集のみ（5回）
白崎良二	代表：集会の運営、計画、講師選定、会費検討		高齢化、学寮OB2名、高齢化対策としてオンラインツール利用を検討		
日本キリスト教団佐久教会	長野県	1988年8月	毎週日曜	信徒伝道者が聖書講解（説教）	ナシ
武田武長	信徒伝道者（専任牧師がいない）				
上伊那聖書集会（無教会）	長野県	1936年	毎週日曜	亀谷勉氏（寮OB）1回/月、他はCD等	ナシ
有賀進	代表（会場の提供）		CDは高橋三郎先生、吉村孝雄先生、輪読は有賀実男氏著『マルコ』		
日本キリスト教団富士見高原教会	長野県	1948年	毎週日曜	専任牧師、「オリーブ会」1回/月 家庭持ち回り	ナシ
藤田信夫	教会関係の雑用お手伝い（妻が教会員）		標高1,000mの高地のため外出難		
志木聖書を読む会	埼玉県	1970年代中頃	1回/月		ナシ
三浦永光	聖書講解者、責任者				
日本キリスト教団狭山教会	埼玉県	1989年	毎週日曜	水曜日は聖書学ぶ会、祈祷会	ナシ
森 孝	1989-2012年まで役員				
クロスロード・インターナショナル教会	東京都	1990年	毎週日曜	牧師、平信徒	HPにメッセージ、YouTubeに動画配信
小西孝蔵	聖書講話（2か月に1回）		無教会のように聖書、聖霊の導きを重視し若い世代多くオンライン化はプラス		
無教会新宿集会	東京都	1949年12月	毎週日曜	輪番制	「講義感話集」、「おとずれつ」月刊
島創平、浅野攝郎	運営委員会議長（進行役）、運営委員		高齢化		
経堂聖書会	東京都	1980年9月	毎週日曜	輪番制	「若木」2回/年、数年毎の文集「恩恵の継承」
野末榮一、福島穆、小島拓人	前講担当3回/年、聖書講義		ネット配信、一部オンライン化		
杉並聖書集会	東京都	2004年4月	2回/月	主宰者による聖書講義と質疑、自由討論	「湘南便り」
坂内宗男	主宰者		高齢化、若者が足を運ばない、会場の確保		
阪神聖書研究会	兵庫県	1966年1月	毎週日曜	輪番制（主に3名）	ナシ
野田一三	とりまとめ世話人、聖書講義		高齢化		
岡山聖書集会（無教会）	岡山県	1960年4月	隔週2回/月	主宰者による聖書講義	「マラナ・タ」月刊（2014.4創刊）
香西信	主宰、講話担当				
日本キリスト兄弟団(BIC)滝部伝道所	山口県	1961年7月	毎週日曜	説教者2名交代制	ナシ
岡崎新太郎	メッセージャー（説教者）		過疎化のなかアジア在留者との交流		
天神聖書集会（無教会）	福岡県	1958年9月	毎週日曜	輪番制（2名）	「南の風」
副島浩	代表		高齢化		
泡瀬バプテスト教会	沖縄県	2000年	毎週日曜	専任牧師	礼拝の週報
石原昌武	会員		参加者80~90名、小中高のチャータースクール		

黒崎幸吉著『註解新約聖書』Web版のご案内

この春、大島守夫氏が中心となって2008年以来進めてこられました黒崎先生『註解新約聖書』Web版のサイトを登戸学寮HPサーバーで預かることになりました。この十巻本は昭和3年以来半世紀以上版を重ね読み継がれてまいりました（例『マタイ傳』明和書院 1928初版 1952年13版、立花書房 1995年までに改訂27版）。この註

解のWeb版の公開により誰もが自由に閲覧できるようになりました。この間約40万件（100件/1日）のアクセスがあり、現在も多くの方々に愛読されています。このWeb版により聖書により親しみいただければ幸甚に存じます。（武藤富男氏の書評があります『キリスト新聞』1970.6、『回想黒崎幸吉・光子』再掲p.398（新教出版1991））。

登戸学寮 寮友会 より

■ 寮友会会長に就任して

石川 光 (2003年入寮、登戸学寮評議員)

この度、寮友会会長を拝命いたしました。登戸学寮にはこれまで、寮生として、役員として関わって参りました。これまで多くの方々を支えられて守られてきた学寮を更に発展させていくために、寮友会という立場からも微力ながら貢献できればと考えております。

課題は役員の高齢化と世代交代の遅れ

登戸学寮には素晴らしい設立の理念と、多くの関係者によって守られてきた歴史が存在します。同時に、時代と共にアップデートされてこなかった多くの問題と歪みが存在することも確かです。寮友会は学寮から独立した組織ですが、同様の課題を多く抱えております。

寮友会最大の課題は、関わる会員の高齢化と世代交代の遅れです。関係者の皆様は非常に多くの犠牲と労力を重ね、本日の寮友会を作り育ててくださいました。しかしながら、若手卒寮生や働き盛りの中堅層、そして最近定年退職されたような年代すら寮友会の役員やその活動にほとんど見受けられないのが現実です。会員として参加したくなるような理由が薄れ、現代における寮友会の在り方が問われ、その活動や発信とコミュニケーションなどに多くの課題が残っております。

新会長としては、まず多様性に富んだ多くの卒寮生がこれまで以上に寮友会に参加し、寮友会を通して学寮や現役寮生と良い関係を築くことができるような基盤を作りたいと考えております。具体的には、若手の卒寮生、中堅卒寮生が参加しやすい場や機会の企画・提供、そして現役寮生と卒寮生の接点を登戸学寮と共に作ることで考えております。既に進んでいるプロジェクトもあり、寮の日曜集会への卒寮生の派遣（ビデオ参加含む）などは寮長や理事長にも相談した上で、コロナ禍においてどのように運用できるか検討いただいている段階です。

コロナ禍の影響により、これまで対面で行われてきた寮友会役員会がなかなか開催できず、結果として本年に入ってから新体制が動くことになりました。しかしながら、役員や顧問の皆

さまの積極的な参加と協力により、4月以降はほぼ毎月役員会がテレビ会議システムを活用し活発に行われております。新型コロナにより大きく変わった世界のなかで、寮友会も大きく変わらないといけないチャンスが到来していると感じております。

寮友会の総会も近づいてきておりますが、次期役員にはより多くの若手に参加頂き、待ちの姿勢ではなく、積極的に協力し動く執行体制が新たに発足することを願います。小さなことでも結構ですので、寮友会や卒寮生のコミュニティーをこのように育ててほしい、このような取り組みがしたい、などご意見を頂ければ幸いです。至らない部分も多いですが引き続きご指導の程どうぞ宜しくお願いいたします。

連絡先：ishikawa.hikaru@gmail.com (石川 光)

■ 最近召天された卒寮生

† 三関祐二様 2021年8月 (1967年入寮)

コラム 俳句鑑賞の手引き

俳人(学寮OB) 岸本尚毅

若き日の幸田露伴は、経済的事情から学費不要の電信修技学校を修了。通信省の電信員として北海道に赴任しましたが、明治二十年、二十歳のとき無断で帰京します(原因は色恋沙汰とも言われるが、真相は謎)。その途中、福島あたりの夜道で「野たれ死」を覚悟して「里遠しいざ露と寝ん草まくら」と詠みました。「露伴」という筆名は「露と寝ん」に由来します。職場放棄で免官され、浪々の身となった露伴青年は「とんぼうの帽子に睡る小春かな」と詠んでいます。

その後、大作家となった露伴ですが、少年時代から俳句を好み、芭蕉の俳句を解説した「七部集評釈」が生涯最後の仕事になりました。家庭内では幸田文(娘)や青木玉(孫)などに俳句を教えることもありました。余談ですが、いったんは通信技術者となった露伴は数学が得意だったそうです。(参考文献 岸本尚毅著『文豪と俳句』集英社新書)

ご支援へのお礼とご報告

コロナ禍のなかご支援賜り誠にありがたく心から感謝申し上げます。ここにご芳名を記して御礼申し上げます。

寄附者ご芳名

2021年4月1日から2021年7月31日まで（敬称略） 個人106名・1団体、延べ総件数119件

（個人）106名

青木 幹夫、阿部 光成、有賀 進、石原 能行、石渡 正子、井出 紀子、伊藤 康子、入嶋 喜平、岩島 寛、上田 明子、内田 栄子、内野 隆三、大川 四郎、大崎 桂介、太田 源左衛門、大山 綱夫、奥田 信夫、恩田 美和子、柿沼 蓉子、金井 守、金沢 信治、金子 幸子、神谷 光子、儀賀 裕理、岸本 尚毅、岸本 由美、北爪 文義、木村 秀夫、櫛田 俊明、栗栖 泰郎、黒崎 光子、黒崎 稔、黒崎 留己子、小泉 智博、幸野 道雄、小島 拓人、小関 道子、小館 美彦、児玉 伸彦、木幡 藤子、酒井 玲子、笹井 岩男、佐藤 勝輝、佐藤 よし、佐野 光郎、佐野 好則、島 創平、白方 勇一、白崎 良二、新宮 眞、鈴木 守、須藤 浩一郎、鷺見 八重子、須山 英三、副島 茂、副島 浩、副島 正人、高田 暁治郎、高田 秀樹、高橋 由典、高山 久郎、瀧山 晃弘、竹内 弘之、

丹野 武宣、土岡 和樹、土屋 泰次、富井 直子、富永 尚、友寄 隆房、鳥居 祝子、直木 葉造、永井 和子、南雲 清美、浪川 優希、西川 信義、西永 頌、西野 勝、西原 偕子、野々瀬 浩司、羽賀 道信、橋内 武、橋本 隆夫、長谷川 浩司、花房 雅子、平田 和吉、福島 穆、福田 由美子、藤田 ナツ子、藤原 國士、古角 修、星野 光利、本田 圭、松浦 宏允、松沢 弘陽、三上 章、三田 洋子、三好 信夫、安田 裕、矢野 那奈子、山田 信昭、山本 鐵子、山本 浩、横尾 宗敬、吉澤 壽樹、李 善利、鷺崎 安久

（団体）1名

山形聖書集会

以上

寮生の出身国・都道府県

太字は新入寮生

2021.9.1 現在

男子寮生（19名）	女子寮生（14名）
北海道（1名+新入寮生1名）、山形県（2名）、福島県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県、神奈川県、静岡県、大阪府、広島県、大分県、長崎県、韓国（2名）、アメリカ合衆国、カナダ	北海道、 宮城県 、 福島県 、埼玉県（2名）、 東京都 、神奈川県、新潟県、 長野県 （1名+新入寮生1名）、 静岡県 （2名）、岐阜県、沖縄県

【編集後記】

登戸学寮では現在、コロナ感染対策として指先アルコール消毒の設置、マスクの提供、食堂のテーブルをはじめ人が触れる所のアルコール消毒などの日常の対策に加え、エアドック（強力な空気清浄機）の導入や温水自動水栓（食堂、各寮、職員トイレ）を設置したほか、PCR検査（入寮時など）と抗原検査（帰省前後、怪しい時）も実施しております。コロナ禍において寮生の日常が守られますことをお祈りいただければ幸いです。（M.C、C.O）

公益財団法人 **登戸学寮**

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 6-6-1

☎ 044-933-0819 ☒ noborito@gakuryo.or.jp

発行人 小島拓人

編集委員 千葉 恵、千葉美佐子、鷺見八重子、

岸本尚毅、大谷 恵、早川 嗣、織田千尋

発行日 2021年10月20日